平成３０年度 自己評価書　　足立区立第十中学校　　学校長　早乙女　雄一郎

１．総評

(1) 年度初めの学校の状況　【学校の現状及び前年度の成果と課題】

〈学校の現状〉
◎学校について
［よさ］「文武両道」の精神と上級生の模範となる姿勢が伝統として引き継がれ、落ち着いた学習環境と自治的活動が根付いている。生徒達の健全育成のため、保護者・地域が学校支援に力を注いでくれる。
［課題］生徒一人一人が主体的・自主的に学べるような資質や能力を定着させること。
◎生徒について
［よさ］全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組んでいる。生徒会を中心に良き伝統づくりのため努力している。
［課題］主体的にものごとに取り組む姿勢、規範意識、基本的生活習慣、学習習慣の確立が必要である。
◎教師について
［よさ］誠実な心と正義感をもって生徒と向き合い、豊かな心や学ぶ楽しさを教えている。保護者や地域とのかかわりを大切にし協力を惜しまない教師集団である。主幹を核として組織的に教育活動を展開している。
［課題］核となる中堅教員の人材育成と分かりやすい授業を提供するための指導方法の工夫改善。
◎保護者・地域について
［よさ］保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、協力的である。
［課題］家庭教育を支援する取り組みを強化する。
〈前年度の成果と課題〉
・平成２９年度区学力調査　通過率　年度当初 74.7%（前年比＋3.7%）、再調査では 80.7%に変容した。年度当初目標値に達しなかった生徒も再調査で目標値をクリアしている。
・朝学習や補充教室で低学力層の生徒の抽出による個別指導を行うことで基礎学力の定着が図られている。成果が表われにくい生徒もいるので、今後も粘り強く継続的に抽出指導を行っていく。
・留学生によるゲストティーチャー授業、ＮＨＫＬＥＡＤ、ディジタル教科書の活用、昼の放送を利用した English Wednesday・Friday など英語に関する啓発活動に取り組んだことで、生徒の英語への興味・関心が高まった。
・２年生対象にＧＴＥＣを実施。Writing（作文力）が Grade２（中学生の上位レベル）であった。
・小中連携では連携活動をとおして分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて学習指導の研究を深めた。その結果、生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価 96.1%であった。また、教員アンケートではわかりやすい授業の実施 91%、指導力の向上 91%、児童・生徒への理解 100%、学習指導や生活指導についての相互理解 91%が肯定的な評価であった。
・「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」88%(+2)、「本校の教育に満足している」89%（+2)、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」85%、「生徒の態度や服装はきちんとしている」95%（+5)、「あいさつや言葉づかいなどの礼儀を身につけている」90%（+7）が肯定的な評価であった。
・「生徒の信頼関係を築けるよう努めている」が 83%（+9）であった。90%以上をめざし信頼関係の構築を図る。
・今後も定期的な「いじめ調査」の実施と適切な指導を行うとともに、生徒会による『いじめ０宣言』活動を継続し、いじめ根絶を目指す。
・登校渋りや不登校生徒が微増傾向にある。不登校傾向の生徒へのきめ細かい指導と保護者・関係機関との連携をさらに推し進め、登校渋りや不登校の改善を目指す。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要

重点的な取組事項－１　学力向上の推進
○区学力調査の数値目標達成
○分かる授業の実践
重点的な取組事項－２　小中連携の推進
○連携推進をとおした教員の指導力の向上と生徒の学力向上の推進
○年７回の合同研修会を実施する。
重点的な取組事項－３　文武両道と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進
・一部生徒に見られる校内外の生活指導の課題の解決に、保護者、地域、関係機関と連携して取り組み改善を図る。
・文武両道の校風に沿った部活動の活性化を図る。
・あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着を図る。
・「いじめ０」、「不登校０」を目指す。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１

【今年度の成果】

・平成 30 年度区学力調査の通過率は 65.2％で前年比-9.5％という結果であった。学年別に見ると 1 年生の国数がそれぞれ前年比-24.4％と-4.9％であり学校全体の通過率を下げる結果となった。特に国語では区の平均通過率を下回っている。2 年生では国数の通過率が 70％を超える中、英語の通過率が 58％であった。3 年生は昨年の課題であった数学が+4.2％と向上した。

・全国調査（3 年生）では国語、数学のＡ問題「主として知識」、Ｂ問題「主として活用」共に全国・都・区の平均値を上回った。理科だけ全国平均値を 1.1 ポイント下回った。

・都調査（2 年生）では東京都の平均値に比べ、国（+5.2)、社（-3.2)、数（+3.6)、理（+5.3)、英（+6.4)という結果だった。特に英語の観点別評価の外国語表現では都の平均値より 28.1%も高かった。

・留学生によるゲストティーチャー授業、ＮＨＫＬＥＡＤ、ディジタル教科書の活用、昼の放送を利用した English Wednesday・Friday など英語に関する啓発活動に取り組んだことが英語力の向上につながっている。次年度も英語によるコミュニケーションスキルの向上を図る。

・学力面では全体的に向上している。補充教室で低学力層の生徒の抽出による個別指導を行うことで基礎学力の定着が図られた。また英語と数学のチャレンジ講座が生徒の学習意欲の向上に一役買っている。夏季休業中のサマースクールでは、基礎学力の定着を図るだけでなく、「応用、発展」など学力の上位層を対象にしたクラスを設け実施し、生徒、保護者から好評価を得た。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・1 年生の基礎学力の定着が急務である。特に全ての学力の土台となる国語力の向上が必要である。全教育活動をとおし、言語活動の充実を図る。

・個々の生徒の学習状況から課題を抽出し、組織的に改善策を検討し、朝学習や放課後補充教室を実施し効果的に学力の定着が図れるよう取り組む。

重点的な取組事項－２

【今年度の成果】

・年７回の研修をとおして学習指導や生活指導について小学校と相互理解を深めることができた。

・「勉共会」や「中学校訪問」などの交流事業が中１ギャップの解消や学力定着に役立っている。

・教員アンケートで「わかりやすい授業の推進」96.8%(+5.8)、「指導力の向上」93.3%(+2.3)、「児童・生徒への理解」93.5%(-6.5)、「生徒情報を共有し個に応じた丁寧な指導の実施」93.1%(+18.1)、「学習指導についての相互理解」96.8%(+5.8)、「連携の成果を実感できる」93.5％(+5.5)であった。複数の項目で肯定的な評価 90%以上を得ることができた。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・今年度は連携活動をとおして足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置き、学習指導について研究を深め成果を収めたが、肯定的な評価 90％以上を達成できない項目が見られる。（「生活指導についての相互理解」80%(-11)、「基礎学力教室『勉共会』の実施」89.3%(-0.7)）今後も成果ある小中連携にするために内容について検討し、改善に努める。

重点的な取組事項－３

【今年度の成果】

・登校渋りや不登校生徒が微増傾向にあったが、ＳＣやＳＳＷを活用し、保護者・外部機関と連携して、一部の不登校生の改善を図ることができた。

・保護者アンケート「学校はさまざまな機会をとおして生徒や学校の様子を伝えている」92%(-2)「生徒の態度や服装はきちんとしている」が 91%(-4)であった。前年度に比べマイナスであったが肯定的意見が 9 割を超えた。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・「教職員は、生徒理解に努め一人一人を大切にする指導をしている」72%(-6)、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」78%(-7) 、「生徒との信頼関係を築けるよう努めている」75％(-8) を 80%超にまた、「本校の教育に満足している」84％ (-5) を 90％超目指し改善策を構築する。

・今後も定期的な「いじめ調査」の実施と適切な指導を行うとともに、生徒会による『いじめ０宣言』活動を継続し、いじめ根絶を目指す。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様へ

第十中学校の教育活動は、保護者の皆様のご支援とご協力、さらに学校との協働により支えられています。私たち教職員は地域の学校であることを自覚し、生徒にとって有意義であり、保護者・地域の皆様のニーズに応えられる教育を展開していきます。将来、生徒が自立した社会人としてたくましく生き抜くためには、学力はもちろん、学校内外でのルールや決まりを守らせること、マナーを身に付けさせることが不可欠です。そのために、ルールの必要性を十分に理解させ、授業規律の確立や集団生活の中で相手を尊重する思いやりの心や協調性、責任感を育んでいかなければなりません。これからも、現状に満足することなく常に危機感を持ちながら、教職員が一丸となってきめ細かく、粘り強い指導を続けていきたいと考えております。「組織で勝つ」を合言葉に課題解決に向け、保護者・地域の皆様と教職員が連携・協働を図りながら取り組めるよう努力して参ります。ご家庭でも家庭学習習慣の確立と正しい生活習慣の実践のご協力をお願いいたします。

地域の方へ

日頃より学校公開や運動会、学芸発表会・合唱コンクールなどの学校行事にご来校いただき、生徒達へ励ましのお声掛けをありがとうございます。

また、開かれた学校づくり協議会の皆様をはじめとする地域の方々にご協力いただき、受験前の面接指導が実施できましたこと感謝申し上げます。

地域の皆様には住区まつりや夏祭り、地域清掃などのボランティア活動をとおして、社会や地域への貢献について学ぶ機会をいただいております。生徒達も地域の皆様との協働により成就感や達成感を味わうことができております。ぜひ、これからも多様な体験の機会をいただき生徒達の健全育成にご協力いただきます様お願いいたします。

本校も地域に根ざし、地域に誇れる学校として、生徒達に学習活動や部活動など学校生活全般にしっかりと取り組ませ、大きく成長させ、それぞれの未来を創造させていきたいと考えています。

これからも様々な取り組みにご協力をいただくことや学校の教育活動に対する評価と助言をお願いすることがありますが、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

２．平成３０年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成　　○:おおむね達成　　△:達成せず　　●:課題が残る＞

重点的な取組事項－１　学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
区学力調査の数値目標達成 分かる授業の実践	区学力調査 通過率 全体 70% 国 73.5% 数 66% 英 70.5%	全体 65.2% 国 67.5%　数 66.1% 英 61.9%	学校全体の３科目の通過率は、昨年度より 9.5 ポイント下降した。授業改善や朝学習、放課後補充教室の成果が見られなかった。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント･課題	達成度
○区調査における通過率の向上	・４月実施区学力調査の目標通過率 70%以上。	・学力向上推進委員会を中心にＳＰ表を活用した教科分析を行い、つまずきのある生徒に対する指導についての手立てを構築する。 ・教科内で指導方針や指導内容を検討し授業改善をすると共に各学年との共通理解のもと、目標値を超えない生徒への対応を組織的に取り組む。 ・漢字コンテスト、スペリングコンテスト、計算力コンテストを年２回実施。 ・区調査の再活用 ・読書指導の充実	区学力調査通過率 国語 67.5（-13） 数学 66.1（-0.4） 英語 61.9（-15.0） 全体 65.2（-9.5） １年 国語 63.6 数学 65.1 ２年()内は前年値 国語 77.0(87.7) 数学 71.0(71.0) 英語 58.0 ３年 国語 62.2(75.8) 数学 62.2(58.0) 英語 66.0(74.5) 区学力調査再調査結果学校全体の通過率 74.5%（+9.3）	・１年生の基礎学力の定着が課題である。 ・２、３年生の区調査では大半の教科で前年比マイナスとなったが、国と都調査ではそれぞれの平均値を超えており例年並みの結果であった。 ・再調査では教科・学年によって差はあるが目標値に達しなかった生徒の上昇率は 18.6～72.1%であった。朝学習や補充教室が基礎学力の定着に結び付いている。・	△
○わかりやすい授業の推進	・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価 90%以上。 ・教員アンケート「自分の教える教科に生徒の学習成果が感じられる。」「足立スタンダードを意識した授業を展開することが出来た」90%以上	・足立スタンダードの定着 ・言語活動を充実させた授業の実施。 ・管理職による授業観察、面接指導（各年３回以上） ・教科指導専門委員の指導による授業改善と授業実践（通年） ・数学、英語における少人数指導の充実	・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価 90%(-6.1%) ・教員アンケート「自分の教える教科に生徒の学習成果が感じられる。」100%（+3.2%） 「足立スタンダードを意識した授業を展開することが出来た」93.5%（±0）	・自らの指導方法について振り返らせ、効果的な指導方法を確立させるために教科指導専門委員を活用したり教科内で指導方法の工夫や情報交換などの研究を深めていく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント･課題	達成度
○英語によるコミュニケーションスキルの向上	･パフォーマンス評価により技能２点以上（３段階評価の中レベル）を80％以上にする	・ＡＬＴの活用（英会話を中心とした特別授業の実施） ･足立スタンダードの活用 ･ＮＨＫＬＥＡＤの活用 ･外国人留学生の活用	パフォーマンス評価Ｂ（中レベル）以上 全体　94.3%(+7.7) １年 92%(+5) ２年 94.3%(+8.4) ３年 96.6%(+9.6)	書くことが苦手な生徒も話すことに関しては積極的に取り組んでいる	◎
○補充学習の充実	･抽出生徒の基礎学力の定着。	○10 分間の朝学習及び 20 分の放課後補充教室、サマースクールの充実	・生徒アンケート「朝学習や放課後補充教室は自分の基礎学力の定着に役立っている」の肯定的な評価が 57%（-6）であった。	･全員を対象に補充を実施する中で学力差に応じた対応ができていない。実施方法について検討し改善を図る。	○

重点的な取組事項－２　小中連携の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
･連携推進をとおした教員の指導力の向上と生徒の学力向上の推進 ･年７回の合同研修会を実施する。	・生徒の授業評価と連携推進に関する教職員の肯定的な評価を９０％以上にする。	「わかりやすい授業の実施」96.8%（+5.8)、「個に応じた丁寧な指導」93.1%(+18.1)、「指導力の向上」93.3%(+2.3)、「児童・生徒への理解」93.5%（+3.5)、「学習指導の相互理解」96.8%「生活指導の相互理解」80%、連携の成果 93.5%(+5.5)	･連携をとおし９年間を見据えた学習指導や足立スタンダードふまえた授業を実施したことが分かる授業につながっている。引き続き、児童・生徒の発達段階を踏まえた言語活動にポイントを置き効果的な指導について検討していく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント･課題	達成度
○児童･生徒の学力定着に向けた連携の実施	･「教員同士の連携」に対する教職員の肯定的な評価を９０％以上にする。	・学習指導や生活指導について相互理解を深め、児童・生徒の発達段階を踏まえた効果的な指導について検討する。(言語活動と足立スタンダードに重点を置く。) ・連携推進担当者連絡会を実施し、具体的な連携の調整を図る ・児童・生徒についての情報を共有することでより丁寧な個に応じた指導を実施する。	･「連携をとおして学習指導について相互理解を深めることができた」96.8%「連携をとおして生活指導について相互理解を深めることができた」80%「連携をとおして指導力の向上が出来た」93.3%(+2.3)「連携をとおして児童・生徒への理解が深まった」93.5%（+3.5)	･指導案づくりをもとに授業交流を行い、分かりやすい授業の実施に向け取り組むことができた。 ・さらに効果的な学習方法について検討していく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント･課題	達成度
○連携をとおした指導力の向上	・「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価を 90%以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を 90%以上にする。	・円滑な接続を図るため接続のポイントを意識した教科連携を実施する。 ・指導案づくりをもとに授業公開、授業交流を行い、分かりやすい授業の実施に向け、指導案を検討する機会を設ける。 ・２小学校と１中学校の３校でそれぞれ１回の指導案検討と研究授業（合同研究会)、そして３校合同研修会を実施する。研究協議後のまとめを各校の教員が共有し、児童・生徒の理解や学力向上に努める。	･「連携をとおして指導力の向上が出来た」93.3%(+2.3) ・指導案検討や合同研修会をすることでわかりやすい授業の実施に向け役立った。96.6%(+5.6)	･指導案検討と研究授業を実施することで９年間を見通した授業、足立スタンダードを意識した授業が展開され、それぞれの工夫改善が分かりやすい授業につながっている。 次年度も生徒の言語活動に視点を置いた連携を深めていく。	◎
○小中連携による中１ギャップ解消への取り組み	･交流事業に対する教職員の肯定的な評価を９０%以上にする。	・小学校６年生対象に中学校の教員による国語・算数の基礎学力教室「勉共会」を３回実施する。 ･12 月に２校の小学校６年生に中学校体験、中学校紹介を実施する。	・基礎学力教室勉共会の実施に対する肯定的な意見 89.3%（−0.7）	小学生にとっても良い取り組みになっている。継続して実施する。	◎

重点的な取組事項－３　文武両道と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくり

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・一部生徒に見られる校内外の生活指導の課題の解決に、保護者、地域、関係機関と連携して取り組み改善を図る。 ・文武両道の校風に沿った部活動の活性化を図る。 ・あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・「いじめ０」、「不登校０」を目指す。	･「基本的な生活習慣の定着、生徒の安定した学習状況、いじめや暴力のない学校づくり」などの項目について、あてはまる、ややあてはまるの合計を８５%以上とし、「本校の教育に満足している」の合計を９０%以上にする。	・「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」82%（−6）「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」78%（−7）「生徒の態度や服装はきちんとしている」91%（−4）「生徒はあいさつや言葉づかいなどの礼儀を身につけている」83.3%（−6.7）「本校の教育に満足している」84%（−5）	・「本校の教育に満足している」が 90%に満たなかった。特に「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」では肯定的な回答が 80%を下回ってしまった。学校全体で課題解決に臨み、学校での取り組みを保護者の方に理解していただき、肯定的評価 90%を目指す。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○安定した生活指導及び学習規律の再構築と部活動の活性化	・保護者アンケートの項目で、「学校は集団生活の基本的なことを、しっかり指導している」「本校の教育に満足している」について、あてはまる・ややあてはまるの合計を９０％以上にする。 ・運動部の上位大会出場。 ・文化部の大会、コンクールでの受賞。	・全教育活動を通して、マナー、モラル、ルール遵守の必要性、重要性を説く。 ・各学年、各分掌が一体となり組織的に生活指導に対処していく。 ・定期的及び臨時の保護者会、学級懇談会、開かれた学校づくり協議会等を開催し保護者・地域との連携を図り、落ち着いた学習環境つくる。 ・部活動保護者会を適宜開催する。 ・複数顧問制による指導力の向上。 ・発表会や作品出展の機会を多くする。	・保護者評価「学校は集団生活の基本的な事をしっかり指導している」について、「あてはまる・ややあてはまる」の合計82％（-6） 「本校の教育に満足している」について、「あてはまる・ややあてはまる」の合計84％（-5）	・生活指導に対し、地域・保護者の協力を得ながら組織的に取り組んでいる。大半の生徒は真面目に落ち着いた学校生活が送れている。生徒が主体的に課題解決に向け取り組めるように校内体制を整えていく。 ・美術部の生徒作品が全国レベルのポスターコンクールで受賞している。生徒の活躍の場面を増やせるよう取り組んでいく。	○
○あいさつの習慣化と感性を磨く学習環境の整備	・保護者等の外部評価において、「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」の項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を90％に近づける。	・学校の教育活動全体、保護者や地域との連携であいさつ運動を展開していく。 ・教室や各階の展示物、掲示物の工夫を行い感性が磨かれる学習環境や生活環境を作っていく。	・保護者評価「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」について「あてはまる」「ややあてはまる」の合計83.3％（-6.7）	・肯定的な評価90%を維持できなかった。 これからも保護者と連携した挨拶運動や生徒会主催のＦＧＣ活動を含め学校教育全般であいさつや言葉遣いなどの礼儀について指導していく。	○
○「いじめ０」と「不登校０」を目指す	・保護者等の外部評価において、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」という項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を90％以上にする。	・いじめ防止基本方針に基づき、いじめ予防と解消を図る。外部機関と連携しいじめ防止教室を実施する。 ・諸調査を基に、ＳＣ、特別支援教育コーディネーターを中心に各学年集団、生徒個人の指導の共通理解を図り、指導を深めていく。	・保護者評価「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」について「あてはまる」「ややあてはまる」の合計78％（-7）	・いじめ０を目標にいじめの「未然防止」、「早期発見」、「早期対応」を取り組んできたがアンケートで「わからない」の回答が9.3%あった。改善を図る。 ・一部の不登校に登校につながる改善が見られた。継続し指導する	○

３．学校活動全般について

大半の生徒は落ち着いた学校生活を送っていて、学級満足度調査からもその様子がうかがえる。

しかし、一方では生徒アンケート「毎日の学校生活は楽しい」で肯定的意見83％(+1)（否定的意見10.8%(-2.2)、わからない6.2%(+1.2)）、「十中に入学して良かった」で肯定的意見78.6%(-8.4)（否定的意見9.6%(-3.6)、わからない12%(-5)）という結果であり約２割の生徒が学校生活に満たされていない様子もうかがえる。

学習面では区学力調査で１年生の通過率が例年に比べて低く、特に国語では区の平均値を下回った。１学年では補充教室の他に学習面で課題のある生徒には学習する機会を設けて対応している。国調査(３年)の結果では理科が区、都の平均値を上回ったものの国の平均値には若干届かなかった。また、都調査（２年）でも社会が国、区の平均値を上回ったものの都の平均値を超えることはできなかったが、他の教科では国（+5.2)、数(+3.6)、理(+5.3)、英(+6.4)の結果であった。特に英語の観点別評価の外国語表現では都の平均値を28.1%も超える結果であった。英語の重点校としての取り組みの成果である。

また、今回課題が見られた区調査に対しても学力向上推進委員会が中心となって、朝学習や放課後補充教室、そして夏季休業中のサマースクールなど学校全体で組織的に学力向上に取り組ませ区調査の再調査では通過率が74.5%(+9.3)に向上した。

英語と数学の習熟度別少人数指導では指導する教員が定期的に変わることで生徒が戸惑うことのないように毎週教科部会を開催し、指導方法や進度などを打ち合わせわかりやすい授業に取り組んでいる。英語によるコミュニケーションスキルの向上という目標を掲げ様々な取り組みを行った結果、パフォーマンステストＢ以上が94.3%(+8.4)であった。毎週水曜日と金曜日にEnglish Wednesday・Fridayを実施し英語に関する啓発活動を行なっている。その効果からか英検の受験者が増加したり、３年生の準２級合格者が２０名を超えるなど、英語への関心が高まっている。１年より２年、２年より３年といった学年進行に伴い学習面での成果が高くなっている。

部活動には全体の90%の生徒が加入し熱心に活動している。吹奏楽部は運動会の入場行進や学芸発表会など学校行事だけでなく地域のふれあいコンサートなどで演奏する機会が増えたことが上達に繋がり、都の吹奏楽演奏コンクールやアンサンブルコンテストで銀賞を受賞した。演劇部も足立区連合学芸会に出場し素晴らしい演技で観客を魅了し高評価を得ていた。美術部も様々なコンクールに出品し数多くの賞を受賞している。東京都が募集した未成年の喫煙防止ポスターでは最優秀賞を受賞した。運動部では陸上部女子が連合陸上大会第２位、連合駅伝大会では女子が第３位、男子第７位に入賞した。他の運動部でも入賞するようになってきている。オリパラ教育の一環として一昨年度新設した卓球部も区大会で入賞し、都大会ベスト３２位に入るなど成果を上げている。

生徒会を中心に「ＦＧＣ活動（あいさつ運動)」や「エコレクト活動（ペットボトルキャップ集め)」、「地域清掃ボランティア活動」「いじめゼロ宣言」などを実施している。地域清掃ボランティアに参加する生徒が毎年増加していてボランティア活動に対する意識の高まりが感じられる。また、生徒会が中心になって「いじめゼロ宣言」を行うことで、いじめについて深く考え、いじめを許さない姿勢をそれぞれの生徒が身につけ、いじめのない学校づくりができてきている。

地域の避難所運営会議と協力し避難所訓練と防災訓練を合同で実施している。初期消火訓練やＡＥＤの使い方、けが人の搬送訓練などいざというときに役立てるように、毎年中学２年生全員が避難所訓練には参加している。また、その機会に中学２年生で組織している中学生消火隊の消火訓練を披露している。

開かれた学校づくり協議会のお声かけにより、盆踊りなど地域行事への生徒参加が図られており、将来の地域行事の担い手となることが期待できる。

ここ十数年の間に過去の十中を払拭し、地域に根ざした、地域に誇れる学校へと変容し、選ばれる学校として評価されている。

本校を選択し入学した生徒が、卒業する時に「十中に入学してよかった」と100%の生徒が思えるような、成果が実感できる充実した学校生活を提供できるように、学校に関わる皆さんと協力して作り上げたい。